砺波カイニョ倶楽部会報　８８号

平成２９年８月発行　　発行者　砺波カイニョ倶楽部　　代表幹事　出　村　　忍
事務局　富山県砺波市表町　１４－１０　電　話　０７６３－３３－６５８８　天野一男建築工房内

うす陽もさした洞スギ見学会・２２名参加

７月３０日、片貝川奥部の洞スギを中心とした樹木見学会に、２２名が参加した。

梅雨明けにもならず、台風の影響も加わり天候の心配をしたが、幸い雨もなく、時々、うす陽の射しこむ日となった。そのような中、５Km 近い山道を全員が歩き、洞スギの精霊をしっかり受けてきた。

往路のバスの中では、高畑邦男理事が進行し、出村忍会長の挨拶、柏樹直樹理事が砺波のカイニョと洞スギ見学のつながりと意味・期待等を話した。

現地では、魚津観光ボランティア“ジャントコイ”の伊東清隆さんと佐伯克美さんのお二人に、午前しっかりと案内をしていただいた。昼食は、片貝川山ノ守キャンプ場でゆっくりとり、午後は、県薬用植物指導センターでの樹木・草本の自由散策で、各人関心のあるところを見て回った。カイニョに適した植物等の説明を期待したが、休日でその希望は叶えられなかった。その後、眼目の立山寺（りゅうせんじ）（曹洞宗）のトガとスギの参道を歩き本堂で休み帰路についた。

復路のバスの中では、参加者全員に感想をお願いし、快く応えていただいた。

４時過ぎに、散居村ミュージアムに到着し、散会した。

【洞スギ林地での説明・メモ】

▽　２m以上の大石を根に抱え込んで、複数本成立している多世代のスギ。「洞スギ岩上植物群落」として、魚津市指定文化財になっている。約５００mの散策路がつくられていて、林地を歩き多様な洞スギにふれられる。

▽　生育地、海抜高６００m、最大主幹周囲１，５６０㎝、地元民が主幹を建築材として利用。樹齢３００年～５００年。藩政時代は禁伐。

▽　主幹のまわりに数本が立条し、その主木の数mのところで又分枝し、立ち上がっている。
まるで、３世代・４世代の家族が共同で生きる姿――その主幹の下には、必ず大石がある。

▽　毛勝山からの崩落石（花崗岩）の上の巨木、約１２８本を確認。
石の上が温かいこと。雪崩での根元からの移動が押さえられる事。また、石の上に成立したスギは、湿度の高い沢面に根を出し、数百年かけ下の土地に根を張り生命をつないだ。その石の下部は「うろ」になっていて、雨やどりができ、猟師の休み場として使われた。

▽　枝分かれしたところに腐葉土がたまり、コシアブラ、ヤマウルシ、ツツジ等が寄生、小鳥のコロニーをつくる。

▽　林内（園地）の人工林スギに、熊の皮はぎ跡が沢山見られた。見学１週間前の皮はぎのツメ跡が生々しい形で見られた。

【洞スギ林地までの間で】

▽　蛇石（龍石）――河岸にある大石。白い花崗岩に黒い輝緑岩がヘビの形で巻き込んでいる岩が河原にあり、雨乞いの岩として毎年神事が行われている。

▽　モリアオガエル生息地――林道のワキにあり、その間５０mほど舗装せずに、自然態の沼地にしてある。沢山のオタマジャクシがいた。

【富山県薬用植物指導センター】

▽　上市町広野、敷地４．３ＨＡ。薬草標本園０．９ＨＡには、落葉樹、針葉樹、常緑樹、その日蔭の植物、ボタン、シャクヤク園等、薬用になる植物が育成されている。

▽　目についたものとして
〈大木〉　センダン・ナンキンハゼ・ホウノキ・エンジュ・クスノキ
〈中木〉　メグスリノキ・キハダ・ニガキ・サンシュウ・ザクロ・アカメガシワ・ナツメ・アンズ
　　エゴノキ・サイカチ
〈低木〉　サンシュウ・ノリウツギ・ニワトコ
〈草本〉　オオレン・イカリソウ・ドクダミ・ゲンノショウコ・ウツボグサ・カワラヨモギ

▽　屋敷林内に入れるのに参考になる樹木が色々見られた。

【立山寺のトガ並木】

▽　６４０年前に大徹和尚が開基。
県内曹洞宗の中心寺院。

▽　戦国時代、上杉謙信に焼かれ復興。
その後、昭和９年、昭和２８年の２回焼失。
昭和５０年、現本堂が建立された。

▽　参道のトガ並木は、富山県指定天然記念物。
トガ、スギ並木の参道が約１００m。
樹齢は、古いもので、３００年生。
歩いていると心が洗われた。

（立山寺のスナップ）

「石の上のスギ大樹に感動！！」

全員の一口感想　　（敬称略）

中島　　：始めてのところで大変良かった。
高畑（弘）　：昨年の美女平も参加したが、今日も新しいことを知った。
　　初めてのところであったし、是非、家族を案内したい。
藤井　　：スギの生命力の強さをしっかり感じた。片貝川の流れは綺麗で涼しかった。
　　一句を「猫又の渓流白し風すずし」「洞スギの巨岩の陰に秋近し」
中居　　：洞スギの岩をだく姿に感動。
西岡　　：石の上のスギ、思い出としてしっかり頭に焼きついた。
安達　　：素晴しい森の中を歩け良かった。心が洗われた。
森田　　：素晴しいところで良かった。
　　神社の樹を伐ったが、後継樹を植えたいと思った。皆様に話したい。
島田　　：若い時にきたはずだが、洞スギの記憶はなかった。
　　スギのすごい生命力に感動した。
松永　　：生命力にただ感心。家族の力をあわせる姿であった。
扇沢　　：スギと清流に心をうたれた。次回も是非、参加したい。
河島　　：かつて父がカイニョ倶楽部で世話になった。
　　洞スギの石の上の姿、生命力に感動。
　　この時間ならもう一ヶ所見学地があると良かった。
河原　　：昨年と２回目、すごいスギにあえた。西部にはないのか？
　　雨が心配だったが、降らなかったことが良かった。

（熊の皮はぎ）

長原　　：洞スギの形にびっくりした。木のことは知らなかったが、良い機会になった。
津田　　：数百年の風雪に耐えている姿に元気をもらった。
　　地元の案内ガイドが良かった。
宮川　　：今年は、雨・蜂にやられなくて良かった。洞スギに感動、習って子を育てたい。
柏樹（隆）　：５Ｋｍの山道をよく歩けた。立山寺の並木も良かった。
　　暑さと雨の心配がなくて良かった。
小幡　　：石をだき、空洞になって子供を立ち上げる。すごい魅力だ。
　　薬用植物園、立山寺で案内がなかったことは淋しかった。
松田　　：親の横に子が立ち上がる姿は家族とよく似ている。
　　現地ガイドの素朴な説明、大変良かった。
高畑（康）　：現地のガイドさんが良かった。
　　５００年のスギにふれ、感動した。

（洞杉）

高畑（邦）　：スギの生命力に感動した。スギの命からすると人間の命は浅い浅い。
　　子供達にカイニョのことをどう話し、関心をもたせるか、精一杯考えたい。
　　先生にも相談して進めたい。
出村　　：カイニョ倶楽部の責任者として、出来ることから実行したい。
　　巨木見学会にむく木は、呉西では少ないのではないか？
　　子供達にカイニョのことをつなぐため、北部小学校の先生にも話をもちかけている。
　　市主催の（８月１１日）カイニョ見学会にも参加して欲しい。
柏樹（直）　：一緒に山を歩き、雨にあわなかったことが最大の喜び。
　　ガイドさんの案内は良かった。
　　石とスギの共生のメカニズムを知りたい。
　　神社に木を植えたいとの話しも出され、嬉しくなった。是非、相談し実行して欲しい。

（参加者集合写真）

「カイニョのこと・洞スギとのつながり」

――柏樹理事の案内レジメ――

１．４０年余りカイニョを見てきて、今、一番気になること。
　神明社の社叢消滅――「杜」の否定。
　杜より社殿・玉垣を大事にする――木の上に人をおく“おごりだ”。
２．不平をいいながらカイニョと共生している砺波の形。
　世界から注目されている。
　木は人の生きる原点・ベース・教典――木のまねはできん。
３．カイニョの中心にスギ――これは人が求めつくった。
　スギの真の価値は１００年以上になると出てくる。――質・量・風格・力が違う。
　あと３０年ガンバレ！――年寄りがつき合う。
　色んな木をまぜ、風に強いカイニョに。
４．洞スギ見学の意味――カイニョにつながるスギのいきざまにふれる。
　どんなところでどう生きているか？
　命のつなぎ方、生き方――石の上に根をはる。立條更新（親のまわりに子が立つ）。
　猫又山の２０２０ｍ高海抜生息スギにつながる（耐雪、耐寒性の代表種）
５．砺波の共同目標　“夢”をもとう！
　全戸に元気なカイニョを――７０００戸のカイニョの里。
　本物の砺波の“土産”をつくろう。